

故栗林政雄教授追悼記念小特集『リスクと保険』

序 故栗林政雄教授を悼む

千葉経済論叢編集委員会

故栗林政雄本学教授（昭和6年＝1931年 — 平成13年＝2001年）は保険学をご専門とされ、またそれに関連してリスクについてご研究され、その他に商学全体に及ぶ広い視野から、幅広い対象についてご研究された。本学の紀要である千葉経済論叢には、1989年の創刊号から1999年の第20号まで、ほとんど毎号のように、合計14本の論文を発表されている。千葉経済論叢だけでも年1本を超えるペースの多産であった。保険やリスクの他に、小売業、販売計画、販売予測、物流などに関しても論文を著わされた。商学全体の体系に直接関連するものとしては、商学概念、商業機能などに関する論文も著しておられる。主にご専門とされた保険やリスクに関しても、製造物責任や地震保険など、青年のように新しい問題を解明しておられた。まだまだ御活躍を期待されていたが、70歳を前に惜しくも平成13年2月19日、急逝された。故人の温厚なお人柄を偲び、また教育および研究における本学創立以来の永年の御功績に心からの敬意を捧げ、ここに故栗林政雄教授追悼記念小特集『リスクと保険』を編集し、御霊前に捧げる。

〈論文〉 上山道生「保険とリスクマネジメントに関する若干の考察」。55頁－70頁。

〈論文〉 松本宏之・江藤 肇「プレジャーボートの事故と保険についての現状分析」。71頁－100頁。

〈研究ノート〉 江藤 肇「海洋開発におけるリスク概念の検討と新保険市場の可能性」。101頁－130頁。